

日本臨床微生物学会 論文投稿チェックリスト

1. 投稿原稿全体

- 表紙, 邦文要旨, 本文を独立したページにする。
- ページ番号を原稿の下に最初のページから通し番号を付けている。
- 英文要旨は, 英文による「タイトル, 氏名, 所属, 要旨」で構成されている。
- 学名は, 要旨と本文は別のものとして, 最初を書くときは, 属名と種形容名の両方を正式に記載している。また, その後の記載は, 属名の頭文字のみを残し, 種形容名を略していない。
例) 初回 *Escherichia coli*, 2 回目以降 *E. coli*
- 学名はイタリック体になっている。
- 数字と数量 (単位) は投稿規程に従っている。
- 試験試薬およびキット類について登録商品名を記載する場合は, 正式名称を記載し, 商品名のあとにカッコで会社名を明記する。[®]あるいは™は使用していない。
例) ○○キット (会社名)
- 略号が認められていない薬品名は, 正式名称になっている。
例) SDS → sodium lauryl sulfate または sodiumdodecyl sulfate
- 本誌で最初から省略してもよい言葉は, 略号になっている。

2. 邦文要旨

- 文字数は, 投稿規定 I-3-2) に合っている。
- 投稿論文の特徴がわかるよう (掲載に値することがわかるよう), 記述してある。

3. 英文要旨

- 文字数は, 投稿規程 I-3-7) に合っている。
- 改行を入れず, 1 パラグラフになっている。
- 英語表現は, 英文誌を参考に作成され, 英語の堪能な人に英語の添削をしてもらっている。

4. 材料と方法 または 症例

- 採取期間, 採取方法, 採取病院などが記載されている。
- キット, 薬品などの発売元か製造元が記載されている。
- 他の人が追試験できるよう, 方法が詳細に記述されている。
- インフォームド・コンセントを取って施行した研究であることが記述してある。

5. 結果

- 図表が適切に使用され, 結果が詳細に, わかりやすく記述してある。
- 本文中に, 表や図の成績の単純な繰り返しの記載はない。
- 図表のタイトルは適切であり, わかりやすく作成されている。
- 表は, 英文誌のように, 縦線なしで作成してある。
- 写真は, 結果が判読しやすいものになっている。

6. 考察

- 結果と考察が矛盾していない。
- 結果を単純に書き直しただけの重複箇所はない。

7. 謝辞

- AI を用いた場合は, 「論文作成の手引き」【各項目の記載方法】(7) 謝辞を参考に, その旨を記載している。

8. 利益相反

- 著者全員の利益相反について記載している。

9. 引用文献

- 投稿規程に沿って記載されている。
- 文献の引用数 (20 編が目安) は適切である。
- 番号の重複はない。
- 番号は図表中の文献も含め, 引用順に付けられている。
- 要旨に文献を付けていない。